

“100年に一度の変革期を迎えて”

～長崎県政の課題と取り組み～ 5月23日(月) 長崎県立大学佐世保校

5月23日(月)長崎県立大学佐世保校にて地域創造学部実践経済学科と公共政策学科の学生の皆さん230名に「100年に一度の変革期を迎えて～長崎県政の課題と取り組み～」というタイトルで県議会議長を代表して90分の講義をさせていただきました。



長崎県議会は、長崎県立大学と県議会との間で包括連携に関する協定を結んでおります。この包括連携協定は、二元代表制の一翼を担います県民の代表として県政の意思決定を行う長崎県議会と、学術の中心として知的資源が集積する長崎県立大学が、包括的な連携のもと、相互に協力し、様々な地域課題に的確に対応するとともに、魅力ある地域づくりや地域における高度な識見を有する人材の育成に資することを目的として連携協定を締結したものです。その中での一つの取り組みとしての講義でした。

私の講義の中身はさておき、学生の皆さんの熱心な態度に大変関心いたしました。私自身大変緊張した中での講義でしたので、うまく伝わったのか大変心配でした。受講された学生さん全員の感想を後日読ませていただき、多少は役に立ったのかと少し胸を撫で下ろしました。学生さんの感想をいくつか紹介いたします。

長崎県立大学講義 学生の皆さんの感想 (一部抜粋)



議員の方々とは日頃かかわりが無い為、どの様な仕事をして、どの様な仕組みで活動しているのか知らなかったが、今日の講話で少し知ることが出来た。また、議員の活動はとて地域に密着し、市民の不満や我々市民の意見を政治の場で実現しているのだという事が分かった。議員の仕事は“つなぎ屋”と表現されていてとても印象に残った。日本全国どの地域でも人口減少や少子高齢化の問題は注目されているが長崎県は特に深刻な状況にあり、この問題をいち早く解決することが長崎の未来を語る上でカギになってくるなと思った。問題を解決する為にも、県内居住のPR、IUターン者の確保、子育てのしやすい地域づくり等が大切になってくるなと思った。人口を増加させることも大切だが今の人口をいかに維持できるのかという考え方に変換する事もこれからの日本には重要だと分かった。(地域創造学部 実践経済学科)

私は政治への関わり方が難しいと考えている。どうしても直接的関わりよりも投票など間接的関わりの方が多く感じ、遠い存在に感じている部分があった。市民にとって行政との距離が近いというのは要望が届きやすいなどメリットがあげられる一方、偏りが生じるなどデメリットが発生する可能性がある。千住議員はかなり柔軟性のある方だということが今回のお話をお聞きして感じた。年齢や経歴の長さで意見を言う事が憚られるということはこの業界においてもみられるものである。若い人による新しい風を吹き込み、全員が国や自治体を良くしたいという思いで改革が進められると良いと感じた。今日のお話はかなり自分の中で発見があった。この機会を無駄にすることがないよう次に繋げようと思う。(地域創造学部 公共政策学科)



“いさはや愛”が原動力!!

長崎県議会議員 千住よしはる TEL.51-6117 FAX.51-7097 諫早市真崎町956-1-202

1000ju.jp

ふるさと諫早を背負い より良き未来を描く

長崎県議会議員 千住よしはる 活動報告

Reports of Activity

2022

11

No.02

西九州新幹線の波及効果と 変化していくコロナ対策



“いさはや愛”が原動力!!

REGIONALISM IS MY ENERGY